

定期作況報告

令和2年11月
(11月20日現在)



北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：平均気温は上旬が平年並み、中旬・下旬はともに低かった。月平均気温は3.2℃で平年よりやや低かった(-1.5℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬は少なく、下旬は平年並で、月合計は84.0mmで平年より多かった。日照時間は上旬が少なく、中旬は平年並、下旬はやや少なく、月合計は156.60時間で平年並であった。

5月：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬は低く、下旬は平年並であった。月平均気温は11.4℃で平年並であった(+0.5℃)。降水量は上旬が少なく、中旬が極めて多く、下旬は平年並、月合計は67.0mmで平年よりやや多かった。日照時間は上旬・中旬が平年並、下旬はやや多く、合計は197.3時間で平年並であった。

6月：平均気温は上旬・中旬は平年より高く、下旬は低かった。月平均気温は15.9℃で平年よりやや高かった(+0.9℃)。降水量は上旬が平年並、中旬はやや少なく、下旬はやや多く、月合計は78.0mmで平年並であった。日照時間は上旬が平年並、中旬はやや少なく、下旬は少なく、月合計は114.9時間でやや少なかった。

7月：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬がやや低く、下旬は低かった。月平均気温は18.7℃で平年よりやや低かった(-0.8℃)。降水量は上・中旬ともに平年より少なく、下旬はやや少なく、月合計は39.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬・中旬が平年並、下旬はやや少なく、月合計は157.6時間で平年並であった。

8月：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬は高く、下旬はやや高かった。月平均気温は21.1℃で平年よりやや高かった(+1.3℃)。降水量は上旬・中旬ともに平年より少なく、下旬はやや少なく、月合計は57.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年並、中旬・下旬は多く、月合計は182.8時間でやや多かった。

9月：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬は平年並、下旬はやや低かった。月平均気温は16.8℃で平年よりやや高かった(+0.8℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬はやや少なく、下旬は極めて多く、月合計は94.0mmで平年並であった。日照時間は上旬がやや多く、中旬はやや少なく、下旬は少なく、月合計は134.0時間で平年並であった。

10月：平均気温は上旬・中旬とも平年よりやや高く、下旬は高かった。月平均気温は9.6℃で平年よりやや高かった(+1.2℃)。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬は平年並、下旬は多く、月合計は86.0mmで平年並であった。日照時間は上旬がやや少なく、中旬・下旬ともに平年並で、月合計は156.3時間で平年並であった。

11月：平均気温は上旬・中旬とも平年よりやや高く、中旬までの平均気温は4.0℃で平年よりやや高かった(+1.1℃)。降水量は上旬・中旬とも少なく、中旬までの合計は15.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬・中旬とも平年並で、中旬までの合計は84.2時間で平年並であった。

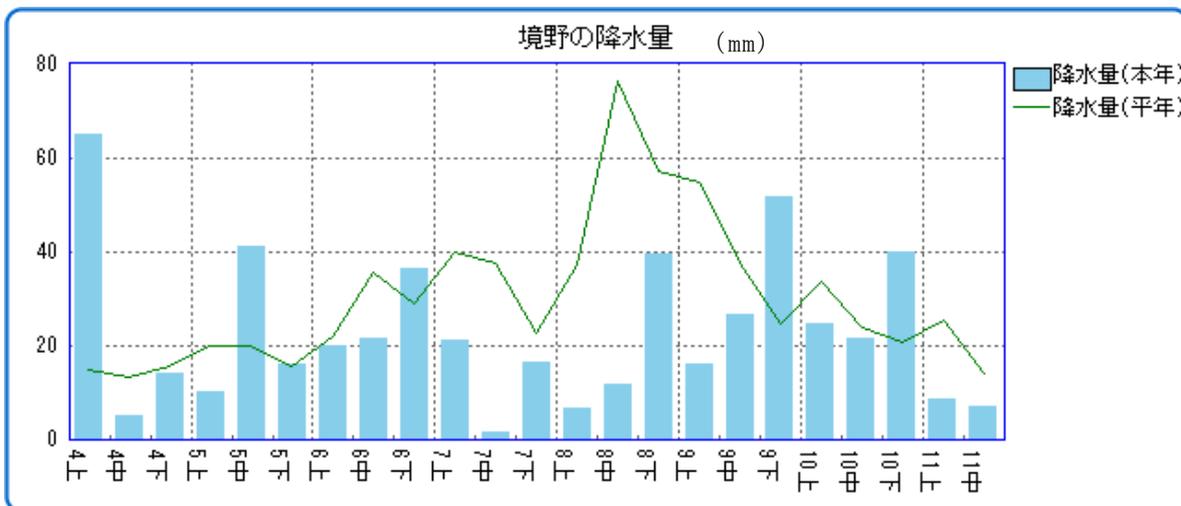
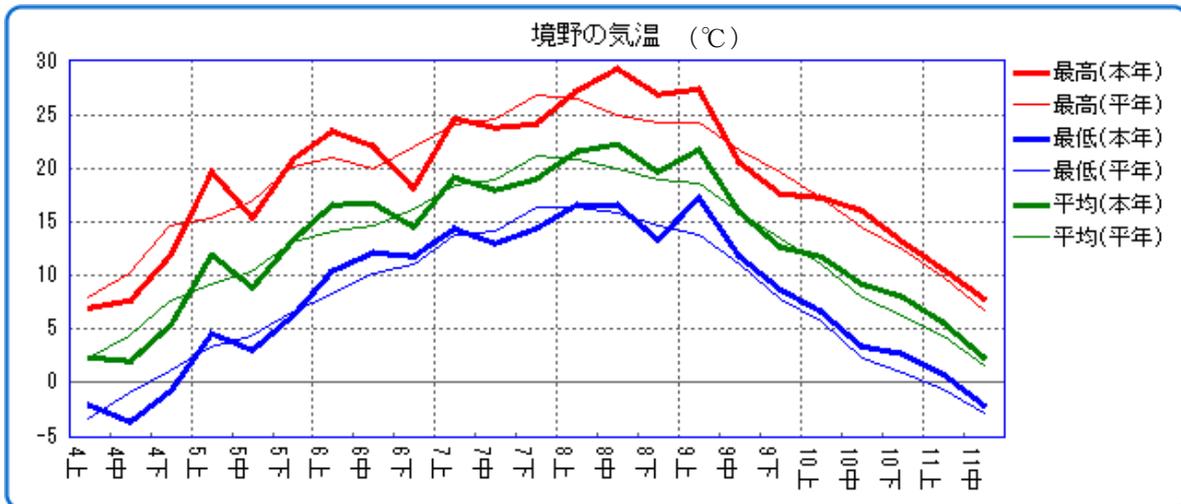
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温：5月は平年並、6月はやや高く、7月はやや低く、8月・9月はやや高かった。この期間の日平均気温の積算値は2569.8℃であった(平年差+83.2℃、平年比103%)。

降水量：5月はやや多く、6月は平年並、7月、8月は少なく、9月は平年並であった。この期間の降水量の積算は335.5mmであった(平年差-192.1mm、平年比64%)。

日照時間：5月は平年並、6月はやや少なく、7月は平年並、8月はやや多く、9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は785.5時間であった(平年差-18.6時間、平年比98%)。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較									
2020年	上旬	2.3	2.3	0.0	7.0	8.0	-1.0	-2.1	-3.3	1.2	65.0	14.7	50.3	38.9	65.8	-26.9
4月	中旬	2.0	4.3	-2.3	7.6	10.1	-2.5	-3.7	-1.0	-2.7	5.0	13.0	-8.0	68.3	59.5	8.8
	下旬	5.4	7.6	-2.2	12.0	14.6	-2.6	-0.7	1.1	-1.8	14.0	15.5	-1.5	49.4	65.0	-15.6
5月	上旬	11.9	9.1	2.8	19.6	15.3	4.3	4.6	3.3	1.3	10.0	19.9	-9.9	49.3	50.8	-1.5
	中旬	8.8	10.4	-1.6	15.4	16.9	-1.5	3.1	4.4	-1.3	41.0	19.9	21.1	55.9	58.4	-2.5
6月	下旬	13.3	13.1	0.2	20.9	20.2	0.7	6.2	6.5	-0.3	16.0	15.4	0.6	92.1	72.7	19.4
	上旬	16.5	14.2	2.3	23.5	21.0	2.5	10.4	8.3	2.1	20.0	21.8	-1.8	60.6	61.0	-0.4
7月	中旬	16.7	14.7	2.0	22.0	20.0	2.0	12.1	10.1	2.0	21.5	35.4	-13.9	40.8	53.0	-12.2
	下旬	14.6	16.2	-1.6	18.1	22.0	-3.9	11.8	11.1	0.7	36.5	28.8	7.7	13.5	54.4	-40.9
8月	上旬	19.2	18.4	0.8	24.7	24.0	0.7	14.4	13.8	0.6	21.0	39.7	-18.7	51.2	46.8	4.4
	中旬	18.0	19.0	-1.0	23.7	24.6	-0.9	13.0	14.2	-1.2	1.5	37.5	-36.0	60.4	54.1	6.3
9月	下旬	18.9	21.1	-2.2	24.1	26.8	-2.7	14.4	16.3	-1.9	16.5	22.5	-6.0	46.0	62.6	-16.6
	上旬	21.6	20.8	0.8	27.2	26.4	0.8	16.6	16.4	0.2	6.5	37.1	-36.6	57.3	50.5	6.8
10月	中旬	22.2	19.9	2.3	29.2	25.0	4.2	16.6	15.8	0.8	11.5	76.2	-64.7	61.1	38.4	22.7
	下旬	19.7	18.9	0.8	26.8	24.2	2.6	13.3	14.7	-1.4	39.5	57.2	-17.7	64.4	45.7	18.7
11月	上旬	21.8	18.6	3.2	27.4	24.3	3.1	17.2	13.8	3.4	16.0	54.6	-38.6	67.4	49.6	17.8
	中旬	15.9	15.9	0.0	20.5	21.6	-1.1	11.8	11.1	0.7	26.5	37.4	-10.9	36.7	48.7	-12.0
12月	下旬	12.7	13.4	-0.7	17.6	19.7	-2.1	8.6	7.8	0.8	51.5	24.5	27.0	29.9	57.3	-27.4
	上旬	11.7	11.1	0.6	17.3	17.2	0.1	6.7	5.7	1.0	24.5	33.6	-9.1	41.2	56.9	-15.7
12月	中旬	9.2	8.0	1.2	16.1	14.5	1.6	3.3	2.3	1.0	21.5	23.8	-2.3	62.0	53.2	8.8
12月	下旬	8.0	6.2	1.8	13.2	12.4	0.8	2.6	0.9	1.7	40.0	20.7	19.3	53.1	58.3	-5.2
12月	上旬	5.6	4.3	1.3	10.6	9.8	0.8	0.8	-0.7	1.5	8.5	25.3	-16.8	45.4	42.3	3.1
12月	中旬	2.4	1.6	0.8	7.8	6.8	1.0	-2.2	-2.9	0.7	7.0	13.9	-6.9	38.8	46.8	-8.0
4月		3.2	4.7	-1.5	8.8	10.9	-2.1	-2.1	-1.1	-1.0	84.0	43.1	40.9	156.6	190.2	-33.6
5月		11.4	10.9	0.5	18.7	17.5	1.2	4.7	4.8	-0.1	67.0	55.2	11.8	197.3	181.9	15.4
6月		15.9	15.0	0.9	21.2	21.0	0.2	11.5	9.8	1.7	78.0	86.0	-8.0	114.9	168.4	-53.5
7月		18.7	19.5	-0.8	24.2	25.2	-1.0	13.9	14.8	-0.9	39.0	99.6	-60.6	157.6	163.5	-5.9
8月		21.1	19.8	1.3	27.7	25.2	2.5	15.4	15.6	-0.2	57.5	170.5	-113.0	182.8	134.6	48.2
9月		16.8	16.0	0.8	21.8	21.8	0.0	12.5	10.9	1.6	94.0	116.5	-22.5	134.0	155.6	-21.6
10月		9.6	8.4	1.2	15.4	14.6	0.8	4.2	2.9	1.3	86.0	78.1	7.9	156.3	168.4	-12.1
11月(中旬まで)		4.0	2.9	1.1	9.2	8.3	0.9	-0.7	-1.8	1.1	15.5	39.2	-23.7	84.2	89.0	-4.8

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初霜	根雪始	通常の根雪終	積雪期間	降雪終	耕鋤始	晩霜	初霜	無霜期間	降雪始
	(年.月.日)	(年.月.日)	(年.月.日)	(日)	(年.月.日)	(年.月.日)	(年.月.日)	(年.月.日)	(日)	(年.月.日)
本年	2019/10/7	2020/1/20	2020/3/28	69	2020/4/27	2020/4/23	2020/5/19	2020/10/16	149	2020.11.4
平年	10/14	2019/12/2	4/10	131	4/27	4/26	5/9	10.13	157	11.3
比較	-7	49	-13	-62	0	-3	10	3	-8	1

期間	項目	平均気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(hr)
	5月上旬	本年	2569.8	335.5
~	10年平均	2486.6	527.6	804.1
9月下旬	比較	83.2	-192.1	-18.6

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。
平年値は前10か年の平均値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（令和1年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は平年より3日遅い9月19日に行った。出芽期は平年より3日遅い9月27日であった。出芽後、10月下旬まで平均気温は平年並から高かったが、11月上旬は低く経過した。越冬前の草丈は平年並、茎数は平年を下回ったが、越冬に必要な生育量は確保できた。根雪始は平年より49日遅い1月20日、根雪終は平年より13日早い3月28日で、根雪期間は平年より62日短かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期が根雪の観測地点より13日早い3月15日で、雪腐病の発生は少なかった。

融雪期以降、4月中下旬および5月中旬の平均気温は低く経過したため生育は遅れ、出穂期は平年より2日遅い6月9日であった。平均気温は6月下旬が低く、7月はやや低かったことから登熟は緩やかに進み、成熟期は7月28日で平年より5日遅かった。登熟期間は平年より3日長かった。赤かび病、倒伏などの病害および障害は発生しなかった。成熟期の稈長は平年よりやや短く、穂長はやや長く、穂数が少なかった。子実重は平年比100%であった。リットル重は平年を下回り、千粒重は平年を上回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目		きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(令和1年月.日)	9.19	9.16	3
出芽期	(令和1年月.日)	9.27	9.24	3
出穂期	(令和2年月.日)	6.9	6.7	2
成熟期	(令和2年月.日)	7.28	7.23	5
草丈(cm)	(令和1年11月20日)	18.8	18.8	0.0
草丈(cm)	(令和2年5月20日)	36.6	38.1	△1.5
草丈(cm)	(令和2年6月20日)	88.9	90.2	△1.3
茎数(本/m ²)	(令和1年11月20日)	1022	1301	△279
茎数(本/m ²)	(令和2年5月20日)	1569	1437	132
茎数(本/m ²)	(令和2年6月20日)	623	763	△140
稈長(cm)	(成熟期)	78	81	△3
穂長(cm)	(成熟期)	9.1	8.3	0.8
穂数(本/m ²)	(成熟期)	575	730	△155
子実重(kg/10a)		730	732	△2
同上平年比(%)		100	100	0
リットル重(g)		793	805	△12
千粒重(g)		41.8	39.6	2.2
品質(検査等級)		1	1	-

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均値。

2) 秋まき小麦（令和2年9月播種） 作 況：やや良

事 由：播種期は平年並の9月16日であった。出芽期は平年より2日早い9月22日であった。出芽後の10月および11月上旬の平均気温がやや高く経過したため、越冬前の草丈、茎数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (令和2年月.日)	9.16	9.16	0
出芽期 (令和2年月.日)	9.22	9.24	△2
草丈(cm) (令和2年11月20日)	22.9	18.8	4.1
茎数(本/m ²) (令和2年11月20日)	1758	1245	513

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均値。

3) 春まき小麦

作 況：不良

事 由：調査圃場は融雪剤散布により3月18日に融雪期となった。4月上旬の降水量が極めて多かったことから、播種期は平年より6日遅い4月20日となり、出芽期は平年より4～5日遅かった。5月下旬から6月中旬は気温が平年並から高く推移したため、生育の遅れはやや回復し、出穂期は平年より3～4日遅かった。7月21日の降雨によって「春よ恋」、「はるきらり」とも倒伏が多発した。成熟期は平年より4～5日遅かったが、登熟期間は平年並であった。稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並で、穂数は平年よりやや少なかった。子実重は平年比89～91%であった。リットル重は平年を下回り、千粒重は平年並からやや下回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.20	4.14	6	4.20	4.14	6	
出芽期 (月.日)	5.4	4.29	5	5.5	5.1	4	
出穂期 (月.日)	6.23	6.20	3	6.22	6.18	4	
成熟期 (月.日)	8.9	8.5	4	8.12	8.7	5	
草丈(cm)	(5月20日)	15.4	18.6	△ 3.2	15.4	18.9	△ 3.5
	(6月20日)	66.7	71.4	△ 4.7	66.1	70.4	△ 4.3
茎数(本/m ²)	(5月20日)	377	574	△ 197	373	553	△ 180
	(6月20日)	720	798	△ 78	712	782	△ 70
稈長(cm) (7月20日)	100	95	5	95	91	4	
穂長(cm) (7月20日)	8.4	8.3	0.1	7.9	7.8	0.1	
穂数(本/m ²) (7月20日)	561	644	△ 83	581	654	△ 74	
子実重(kg/10a)	484	529	△ 46	454	509	△ 56	
同上平年比 (%)	91	100	△ 9	89	100	△ 11	
リットル重 (g)	773	805	△ 32	768	798	△ 30	
千粒重 (g)	40.2	39.3	0.8	39.4	40.9	△ 1.4	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、27年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 良

事 由 : 播種期は平年より2日早い5月14日であった。播種後5月中旬の気温が低く推移したことから出芽期は平年より3日遅い6月1日であった。出芽後6月上中旬は平年に比べ高温で推移したものの、7月中下旬が低温傾向であったことから開花期および抽糸期は平年より1日遅かった。抽糸期後は9月上旬にかけて平均気温が高く推移したことから登熟は順調であり、収穫期は平年並の9月24日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と平年並であった。乾物茎葉重および乾物雌穂重は平年よりやや多く、乾物総重は平年比110%、推定TDN収量は平年比108%と多収であった。総体の乾物率は平年より1.4ポイント高かった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.14	5.16	△2	
出芽期 (月.日)	6.2	5.30	3	
開花期 (月.日)	8.1	7.31	1	
抽糸期 (月.日)	8.1	7.31	1	
収穫期 (月.日)	9.24	9.24	0	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期		
草丈 (cm)	(6月20日)	39.4	33.6	5.8
	(7月20日)	189.0	169.4	19.6
	(8月20日)	288.0	285.4	2.6
稈長 (cm)	(9月20日)	263	254	9
葉数 (枚)	(6月20日)	5.5	5.2	0.3
	(7月20日)	12.8	12.8	0.0
	(8月20日)	13.9	15.0	△1.1
生総重 (kg/10a)	6518	6210	308	
乾物茎葉重 (kg/10a)	961	865	96	
乾物雌穂重 (kg/10a)	1078	986	92	
乾物総重 (kg/10a)	2040	1851	189	
同上平年比 (%)	110	100	10	
推定TDN収量 (kg/10a)	1476	1369	107	
同上平年比 (%)	108	100	8	
総体の乾物率 (%)	31.3	29.9	1.4	
乾雌穂重割合 (%)	55.3	53.4	1.9	
有効雌穂割合 (%)	97.0	99.7	△2.7	

注1) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

5) 大豆

作 況：やや不良

事 由：播種は平年並の5月21日に行い、出芽は順調で出芽期は平年並の6月3日であった。6月下旬の低温寡照により生育は一時停滞したがその後回復し、開花始は平年より4日早かった。7月上旬から9月中旬まで少雨傾向となり、気温も8月上旬から9月上旬まで高く経過したため、高温干ばつ条件下で着莢および子実肥大が進んだ。成熟期は平年より5日早く、成熟期における主茎長と分枝数は平年並で、主茎節数は平年より少なかった。着莢数は平年より多く、一莢内粒数は平年よりやや少なく、百粒重はわずかに軽かった。子実重は平年比99%だったが、屑粒率がやや高く、未熟粒等により検査等級は平年より著しく劣った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目		ユキホマレ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.21	5.21	0
出芽期	(月.日)	6.3	6.3	0
開花始	(月.日)	7.17	7.21	△ 4
成熟期	(月.日)	9.21	9.26	△ 5
主茎長(cm)	(6月20日)	10.7	12.0	△ 1.3
	(7月20日)	54.4	50.0	4.4
	(8月20日)	66.4	64.9	1.5
	(9月20日)	65.5	65.0	0.5
	(成熟期)	64.7	65.2	△ 0.5
本葉数(枚)	(6月20日)	1.6	0.9	0.7
	(7月20日)	7.7	7.4	0.3
主茎節数	(8月20日)	10.0	10.7	△ 0.7
	(9月20日)	9.5	10.6	△ 1.1
	(成熟期)	9.3	10.6	△ 1.3
分枝数(本/株)	(7月20日)	5.1	4.6	0.5
	(8月20日)	5.7	5.9	△ 0.2
	(9月20日)	5.1	5.1	0.0
	(成熟期)	5.3	5.1	0.2
着莢数(個/株)	(8月20日)	84.2	76.4	8.0
	(9月20日)	81.2	69.0	12.2
	(成熟期)	80.2	68.6	12.0
一莢内粒数		1.79	1.95	△ 0.16
子実重(kg/10a)		348	351	△ 3
同上平年比(%)		99	100	1
百粒重(g)		31.5	32.6	△ 1.1
屑粒率(%)		3.3	1.3	2.0
品質(検査等級)		3下	2上	

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

6) 小豆

作況：不良

事由：播種は平年並の5月21日に行い、出芽は順調で出芽期は平年より1日早い6月5日だった。6月下旬の低温寡照により一時的に生育は停滞したがその後回復し、開花始は平年より4日早かった。8月からの高温少雨傾向により、主茎長の伸長と開花、着莢が早い時期に停止し、莢の登熟が急激に進んだことから、成熟期は平年と比べ「サホロショウズ」で20日、「エリモショウズ」で26日早く、登熟期間は極端に短かった。両品種とも、成熟期における分枝数は平年より多かったが、主茎長、主茎節数は平年より少なかった。「サホロショウズ」の着莢数はやや多かったが、一莢内粒数は平年より少なく、「エリモショウズ」の着莢数および一莢内粒数は平年並であった。百粒重は平年より軽く、子実重は平年比79～87%と低収であった。登熟期に降雨が少なかったため屑粒率は低く、外観品質は良好だった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			きたろまん(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月・日)	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	
出芽期(月・日)	6.5	6.6	△1	6.5	6.6	△1	6.5	6.4	1	
開花始(月・日)	7.20	7.24	△4	7.21	7.25	△4	7.21	7.26	△5	
成熟期(月・日)	9.8	9.28	△20	9.8	10.4	△26	9.6	9.30	△24	
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.9	3.9	0.0	4.7	4.0	0.7	4.7	3.8	0.9
	(7月20日)	22.2	15.6	6.6	22.9	16.2	6.7	23.2	16.4	6.8
	(8月20日)	64.3	71.4	△7.1	67.7	63.4	4.3	62.9	67.6	△4.7
	(成熟期)	68	74.8	△6.8	61.6	66.1	△4.5	58.8	70.2	△11.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.3	0.4	0.9	1.2	0.4	0.8	1.3	0.3	1.0
	(7月20日)	6.4	6.3	0.1	7	6.5	0.5	6.7	6.3	0.4
主茎 節数	(8月20日)	12.4	13.1	△0.7	13.3	13.8	△0.5	11.8	13.1	△1.3
	(成熟期)	12.4	13.3	△0.9	12.9	13.7	△0.8	11.7	13	△1.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.1	1.8	2.3	4.9	1.8	3.1	3.6	1.5	2.1
	(8月20日)	6	3.6	2.4	6.8	3.3	3.5	5.2	3	2.2
	(成熟期)	5.6	3.4	2.2	6.8	3.5	3.3	5	4.1	0.9
着莢数	(8月20日)	63.6	39.6	24.0	67.7	36.6	31.1	62.9	36.2	26.7
	(成熟期)	57.5	51.5	6.0	52.6	53.1	△0.5	49.2	49.6	△0.4
一莢内粒数	5.05	5.99	△0.94	6.51	6.49	0.02	5.9	6.53	△0.63	
子実重(kg/10a)	321	371	△50	312	396	△84	316	373	△57	
同上平年比(%)	87	100		79	100		85	100		
百粒重(g)	13.7	15.9	△2.2	12.1	15.0	△2.9	13.2	16.8	△3.6	
屑粒率(%)	0.5	6.5	△6.0	0.9	7.4	△6.5	1.0	6.6	△5.6	
品質(検査等級)	2上	4中		2上	4上		3中	4中		

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

ただし、きたろまん(参考)は前6年(平成26～令和元年)の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

7) 菜豆

作況：やや良

事由：播種は平年並の5月21日に行い、出芽は順調で、出芽期は平年並の6月2日だった。6月下旬の低温寡照により一時的に生育は停滞したが、その後回復した。開花始は7月8日で、平年より1日早かった。8月上旬以降高温干ばつ傾向が続き、成熟期は平年より10日早い8月24日であった。成熟期における草丈は平年より高く、分枝数は平年並、主茎節数と着莢数はやや多かった。一莢内粒数および百粒重は平年並で、子実重は平年比108%と多収であった。登熟期間の降雨が少なかったため色流れ粒や発芽粒が見られず、屑粒率は平年より低かったが、干ばつの影響と考えられる色ムラにより、検査等級はわずかに劣った。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.21	5.21	0	
出芽期 (月.日)	6.2	6.2	0	
開花始 (月.日)	7.8	7.9	△ 1	
成熟期 (月.日)	8.24	9.3	△ 10	
草丈 (cm)	(6月20日)	10.4	11.5	△ 1.1
	(7月20日)	45.6	35.7	9.9
	(8月20日)	44.4	40.2	4.2
	(成熟期)	46.3	40.0	6.3
本葉数(枚)	(6月20日)	2.0	0.9	1.1
	(7月20日)	3.5	3.9	△ 0.4
主茎節数	(8月20日)	5.3	5.5	△ 0.2
	(成熟期)	5.8	5.4	0.4
分枝数(本/株)	(7月20日)	5.4	5.4	0.0
	(8月20日)	5.5	5.0	0.5
	(成熟期)	5.3	5.1	0.2
着莢数(個/株)	(8月20日)	22.0	20.0	2.0
	(成熟期)	21.3	20.1	1.2
一莢内粒数	2.76	2.75	0.01	
子実重(kg/10a)	323	299	24	
同上平年比 (%)	108	100		
百粒重 (g)	66	65.6	0.4	
屑粒率 (%)	1.2	14.0	△ 12.8	
品質 (検査等級)	3下	3中	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒：[下屑粒]+[色流れ粒]。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

8) ばれいしょ 作況：やや良

事由：植え付けは平年より3日遅い5月13日に行った。植え付けの遅れを反映し、萌芽期は平年より2日遅かったが、6月上中旬の気温が高く経過したため、茎長、茎数、開花始は両品種ともに平年並に推移した。しかし、6月下旬から7月上旬まで日照時間が少なく土壌が湿潤な状態が続いたため、茎長は両品種ともに平年を大きく上回り徒長気味であった。

「男爵薯」では、枯ちよう期は平年より1日遅い9月1日であった。株あたり上いも数は平年を下回ったが、塊茎の肥大が良好で上いも平均重が平年を大きく上回ったため、上いも重は平年比113%であった。しかし、でん粉価は低く、中心空洞が散見された。

「コナユタカ」でも同様に、株あたり上いも数は平年より少なく、上いも平均重はかなり大きかったが、でん粉価は低かった。このため、上いも重は平年比111%だったが、でん粉重は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナユタカ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5/13	5/10	3	5/13	5/10	3	
萌芽期 (月.日)	6/1	5/30	2	6/3	6/1	2	
開花始 (月.日)	6/28	6/28	0	7/3	7/4	△1	
枯ちよう期 (月.日)	9/1	8/31	1	10/9	10/16	△7	
茎長 (cm)	(6月20日)	23.5	23.9	△0.4	15.2	13.5	1.7
	(7月20日)	72	49	23	96	70	26
	(8月20日)	73	49	24	111	90	21
茎数 (本/株)	(6月20日)	3.7	4	△0.3	2.4	2.8	△0.4
	(7月20日)	4.8	4.3	0.5	2.4	3	△0.6
上いも重 (kg/10a)	(8月20日)	5329	4613	716	4343	3765	578
	(9月20日)	5182	4604	578	5954	5745	209
でん粉価 (%)	(8月20日)	14.4	15.6	△1.2	19.1	19.1	0.0
	(9月20日)	14.1	15.6	△1.5	20.3	21.0	△0.7
でん粉重 (kg/10a)	(9月20日)	—	—	—	1147	1153	△6
上いも数 (個/株)		8.5	11	△2.5	7.1	9.0	△1.9
上いも平均重 (g)		139	95	44	227	159	68
上いも重 (kg/10a)		5182	4604	578	7041	6333	708
同上平年比 (%)		113	100	13	111	100	11
でん粉価 (%)		14.1	15.6	△1.5	20.0	22.1	△2.1
でん粉重 (kg/10a)		—	—	—	1338	1338	0
同上平年比 (%)		—	—	—	100	100	0

注) 平年値は前7か年中、平成25年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：やや良

事 由：移植栽培の播種は、平年より3日遅い3月25日に行った。育苗期間中の苗の生育は順調であった。移植は、平年より4日早い5月1日に行った。移植の前後に降雨があったため、活着は順調であった。直播栽培の播種は、平年より2日遅い5月7日に行なった。その後十分な降雨があり、出芽期は平年より2日早い5月16日であった。

7月上旬までの気象は総じて平年並に経過したため、移植直播ともに生育は順調であったが、7月中旬から8月中旬までは降雨が少なく、生育は停滞した。しかし8月下旬の降雨後は生育が回復し、その後は十分な気温、降水量、日照時間であったことから、生育は順調に進んだ。

収穫は、平年より1日早い10月19日に行った。移植栽培における収穫期の根重は平年よりやや多かった（平年比105%）。また根中糖分は、8月から9月上旬にかけて著しい高温となったため低下が懸念されたが、最低気温が9月上旬を除いて平年並であったことから、収穫期には平年並となった（平年比99%）。このため、糖量は平年よりやや多かった（平年比104%）

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

表

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	3.25	3.22	3	3.25	3.22	3	5.7	5.5	2	
移植期 (月・日)	5.1	5.5	△ 4	5.1	5.5	△ 4	-	-	-	
出芽期 (月・日)	-	-	-	-	-	-	5.16	5.18	△ 2	
収穫期 (月・日)	10.19	10.20	△ 1	10.19	10.20	△ 1	10.19	10.20	△ 1	
草丈 (cm)	(5月20日)	8.5	6.7	1.8	8.2	6.4	1.8	-	-	-
	(6月20日)	22.3	26.5	△ 4.2	23.3	27.3	△ 4.0	19.2	13.2	6.0
	(7月20日)	54.0	53.0	1.0	55.8	52.4	3.4	52.5	46.8	5.7
	(8月20日)	63.0	58.5	4.5	61.1	58.1	3.0	66.6	60.6	6.0
	(9月20日)	64.9	60.1	4.8	63.9	60.3	3.6	67.4	62.6	4.8
生葉数 (枚)	(5月20日)	5.3	5.3	0.0	4.8	4.8	0.0	-	-	-
	(6月20日)	12.9	11.6	1.3	11.7	11.7	0.0	8.6	7.7	0.9
	(7月20日)	19.0	18.1	0.9	20.6	19.9	0.7	16.4	15.4	1.0
	(8月20日)	24.1	22.6	1.5	26.7	25.7	1.0	21.8	21.5	0.3
	(9月20日)	23.0	25.8	△ 2.8	27.7	28.9	△ 1.2	23.5	23.5	0.0
茎葉重 (g/個体)	(6月20日)	64	89	△ 25	59	94	△ 35	18	11	7
	(7月20日)	452	494	△ 42	546	533	13	408	317	91
	(8月20日)	715	739	△ 24	796	832	△ 36	732	734	△ 2
	(9月20日)	613	715	△ 102	802	847	△ 45	731	738	△ 7
根重 (g/個体)	(6月20日)	15	15	0	16	20	△ 4	1	0.7	1
	(7月20日)	220	256	△ 36	250	269	△ 19	127	110	17
	(8月20日)	730	770	△ 40	719	779	△ 60	549	572	△ 23
	(9月20日)	1092	1073	19	1116	1037	79	937	890	47
根周 (cm)	(7月20日)	19.9	21.9	△ 2.0	24.3	22.7	1.6	17.2	16.1	1.1
	(8月20日)	31.0	32.8	△ 1.8	32.0	33.7	△ 1.7	28.7	28.2	0.5
	(9月20日)	34.9	36.5	△ 1.6	36.3	38.0	△ 1.7	34.7	32.9	1.8
根中糖分 (%)	(9月20日)	16.39	16.10	0.29	16.81	16.60	0.21	16.57	15.80	0.77
茎葉重 (kg/10a)	(収穫期)	4250	4483	△ 233	5330	5448	△ 118	4850	4879	△ 29
根重 (kg/10a)	(収穫期)	8560	7675	885	6990	7132	△ 142	6840	6521	319
同上平年比 (%)		112	100	12	98	100	△ 2	105	100	5
根中糖分 (%)		17.75	18.04	△ 0.29	18.65	18.91	△ 0.26	18.02	17.96	0.06
同上平年比 (%)		98	100	△ 2	99	100	△ 1	100	100	0
糖量 (kg/10a)		1520	1382	138	1303	1345	△ 42	1232	1167	65
同上平年比 (%)		110	100	10	97	100	△ 3	106	100	6

注 1) 平年値は前 7 か年中、平成 26 年(最豊)、28 年(最凶)を除く 5 か年の平均。

10) 牧草(チモシー)

作況: やや不良

事由: 萌芽期は平年より2日遅い4月24日であり、冬損程度は平年並であった。

1番草; 出穂始、出穂期はいずれも平年より1日遅く、刈取時の草丈、出穂程度は平年並であったが、6月上旬の高温と少雨により生育がやや抑制されたため、乾物収量は平年比91%とやや少なかった。

2番草; 収穫は平年より2日早い8月6日に行った。1番草収穫後は平年に比べて降水量が少なかったものの、やや冷涼で、チモシーの生育に適した気温で経過したことから、収穫時の節間伸長程度は平年より高く、乾物収量は平年比115%と多かった。

3番草; 収穫は平年より3日遅い10月6日に行った。2番草収穫後から9月上旬まで続いた高温、干ばつ傾向のため、生育が停滞した。そのため、乾物収量の平年比は62%と低かった。

1～3番草の合計乾物収量の平年比は92%と平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

表 その1

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.24	4.22	2
冬損程度		1.0	1.2	△0.2
被度(%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.12	6.11	1
出穂期	(月.日)	6.16	6.15	1
出穂程度	1番草	8.0	8.0	0.0
節間伸長程度	2番草	4.5	3.7	0.8
刈取日(月.日)	1番草	6.18	6.19	△1
	2番草	8.06	8.08	△2
	3番草	10.06	10.03	3
倒伏程度	1番草	1.0	1.0	0.0
病害罹病程度	1番草	1.0	1.0	0.0
	2番草	2.0	2.1	△0.1
	3番草	3.0	2.9	0.1
草丈(cm)	(5月20日)	37	35	2
	(6月5日)	69	73	△4
	1番草	97	99	△2
	2番草再生時	38	38	0
	2番草	66	63	3
	3番草再生時	26	41	△15
生草収量(kg/10a)	3番草	34	41	△7
	1番草	2,174	2,529	△355
	2番草	946	881	65
	3番草	321	508	△187
	合計	3,441	3,919	△478

表 その2

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
乾物率(%)	1番草	24.3	23.0	1.3
	2番草	24.7	23.8	0.9
	3番草	28.3	29.0	△0.7
乾物収量(kg/10a)	1番草	528	581	△53
	同上平年比(%)	91	100	△9
	2番草	233	203	30
	同上平年比(%)	115	100	15
	3番草	91	146	△55
	同上平年比(%)	62	100	△38
	合 計	852	930	△78
同上平年比(%)	92	100	△8	

注1) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊)、令和元年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

付表1 各作物の耕種概要

作物名	一区面積 (㎡)	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株本数	播種粒数 (粒/㎡)	播種量 (kg/10a)	株数 (株/10a)
1. 秋まき小麦	7.2	4	緑肥大豆	30.0	条播	—	255	—	—
2. 春まき小麦	6.0	4	緑肥大豆	30.0	条播	—	340	—	—
3. とうもろこし	11.2	3	緑肥えん麦	75.0	17.8	1	—	—	7,491
4. 大豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	—	—	8,333
5. 小豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	—	—	8,333
6. 菜豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	—	—	8,333
7. ばれいしょ	37.8	3	緑肥えん麦	75.0	30.0	1	—	—	4,444
8. てんさい	39.6	3	緑肥野生えん麦	60.0	23.8	1	—	—	7,003
9. 牧草 (チモシー)	2.7	4	緑肥えん麦	30.0	条播	—	—	2.0	—

付表2 各作物の耕種概要

作物名	施肥量 (kg/10a)						備考
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他	
1. 秋まき小麦	6.0	18.8	7.5	3.8	—	起生期追肥 N:3.0	H27年より変更
2. 春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0	—		
3. とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0	3,000	炭カル:150	
4. 大豆	1.8	15.0	7.8	3.0	—		
5. 小豆	4.0	20.0	11.2	4.0	—		
6. 菜豆	4.0	20.0	11.2	4.0	—		
7. ばれいしょ	8.0	20.0	14.0	5.0	—		
8. てんさい	14.8	29.6	12.1	6.7	—		
9. 牧草 (チモシー)	15.0	15.0	15.0	3.0	—	〔 造成時 炭カル:200 ダブリン30 〕	

H27年より変更

2年目草地
年間3回分施